

ティー ネット  
**T・NET通信**

2004 WINTER

No. 26

発行

財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034 Email: se-jcu@unicef.or.jp  
ホームページ <http://www.unicef.or.jp> 募金口座◎郵便振替・00190-5-31000・(財)日本ユニセフ協会




✿ コルチャック先生と  
子どもの権利 ✿



人間は第二次世界大戦でも未曾有の悲劇を引き起こし、深い悲しみを経験しながら今も新たな戦争を起こして子どもたちを「戦争だから仕方ない」と傷つけ、無残に命を奪っています。「子どもの権利条約<sup>(注)</sup>」が提案されたのは、子どもは尊ばれるべきひとりの人間であるという考えからです。この考えを実践し、「子どもの権利条約」に大きな影響を与えたコルチャック先生と、子どもを尊重することの意義、「子どもの権利条約」が生まれるに至る背景について考えてみましょう。


(注) 子どもの権利条約 正式には「児童の権利に関する条約」。文中では「子どもの権利条約」を使用。

写真の出典：  
「コルチャック先生」P.91  
近藤二郎著 朝日新聞社刊

 **コルチャック先生が「今」に伝えること**

コルチャック先生（ヤヌス・コルチャック／ペンネーム）は、約100年前に子どもの権利を当然のことであると考え、おとなの人権さえふみにじられた時代に子どもを人権の主体だと主張しました。その考えに基づく具体的な実践こそ、子どもの権利を考える時にはかけがえのないものです。

コルチャック先生の実践の精神は、後に、ポーランド政府を介して、1989年「子どもの権利条約」として結実し、今もその精神を世界に伝え続けています。

 **コルチャック先生とは？**

コルチャック先生（本名 ヘンルイック・ゴールドシュミット）は1878年、当時のロシア領ポーランド王国の首都ワルシャワに住む、高名なユダヤ人弁護士の家庭に生まれまし

た。18歳の時、父を亡くし、生活が一変。以後、家計を支え続けます。

コルチャック先生は「明るい学校をつくり、子どもたちから慕われる優しい先生になる」ことが夢でしたが、4つの戦争と3つの革命という歴史の過酷な体験がコルチャック先生に大きな影響を与えます。医学部に入学した20歳の頃から、その後、小児科医になっても、ワルシャワ慈善協会のメンバーとして、非公式の学校などで社会の底辺にいる子どもたちに温かい手を差し伸べました。33歳の時に小児科医を辞めて、きびしい状況にある子どもたちが安心して過ごすことができ、楽しく学べる家庭と学校がひとつになった「ホーム」を設立します。ユダヤ人の子どものための「ドム・シェロット（孤児たちの家）」と、ポーランド人の子どものための「ナシュ・ドム（僕たちの家）」です。双方の子どもたちは交流を通して友情を深めます。コルチャック先生はこうした子どもたちの教育を通して戦争のない平和な世界への道を見出そうとしたのですが、ユダヤ人絶滅政策により、200名の子どもたちとトレ布林カ（ガス室があった場所）に向かいます。



コルチャック先生は作家、教育者、ラジオのパーソナリティとしても活躍していたため、命を救われる特赦の嘆願が通ったにもかかわらず、最期まで子どもと共に生きたのです。



## コルチャック先生の 実践



写真の出典：「コルチャック先生」P.71 近藤二郎著 朝日新聞社刊

設立した2つのホームで子どもたちが共同生活をする時に、コルチャック先生が大切にしたのは自由な雰囲気の中で、子どもたちが自治によって自分たちを律していくということでした。子どもは両親と一緒に暮らしていれば世話をしてもらえるし、注意も行き届きますが、さまざまな事情を抱えた、たくさん子どもたちが一緒に暮らす場合、秩序が守られないと、混乱を起こしてしまいます。子どもたちは意見を出し合い、いろいろ試し、ホームの運営を子どもの自治によって行っただけです。ホームでは子どもたちを見守り、尊重し、個性を伸ばして育てるために、子どもたちによる「子どもの議会」「子どもの裁判」「子どもの法典」という3つの柱の活動と、問題児を自分たちで助けて立ち直らせていく指導（ガイダンス）委員会が実践されました。うまくいけば子どもたちは満足し幸せを感じますが、うまくいかなければ悪い結果となるので、子どもたちはうまくいくように努力します。子どもたちはコルチャック先生の愛と信頼に応え、ホームの運営に積極的にかかわり、立派な行動をとりました。このように子どもに自治を委ねる教育のあり方は、コルチャック先生の時代も、今現在においても非常に斬新で、革新的な教育方法と考えられています。



## コルチャック先生が生きた 時代背景

コルチャック先生は「19世紀末～20世紀中葉のポーランドに住むユダヤ人」でした。大きな変化の時代に、周囲の国から侵略を受け続けた地で、ユダヤ人、という三重の困難を背負っていたのです。

ポーランドは、18世紀末の国家分割を経て、20世紀中葉

まで過酷な歴史を歩み続け、その間、ポーランド人が受けた苦痛、悲しみ、戦いに流した血ははかりしれません。また、ポーランドは、14世紀後半から西ヨーロッパで迫害されていたユダヤ人を受け入れ保護政策をとってきたため、1880年初頭には、全世界のユダヤ人約750万人のうち、ワルシャワだけで約12万5千人が住んでいました。

第二次世界大戦中、圧倒的に優勢なドイツに降伏したポーランドは2つに分割され、さらに最低限の食べものしか配給されない状況でしたが、ユダヤ人はまたさらに過酷な状態でした。ユダヤ人はその後、ゲットーに移住させられ、飢餓に苦しむ悲惨な状況に追い込まれていきます。1942年1月、ナチス指導者により、ユダヤ人絶滅政策が決定され、7月、ガス室への移送が始まります。コルチャック先生が生きた時代は動乱の嵐が渦まいていたのです。



## 子どもの権利条約に 込められた願い

ポーランドは第二次世界大戦で600万人もの国民を失い、そのうち200万人が子どもでした。このような大きな不幸を再び子どもに与えてはいけません。ポーランドこそ子どもを守るために立ち上がらなければならなかったのです。1978年、ポーランド政府は「子どもの権利条約」の草案を国連に提出します。

「子どもは今を生きているのであって、将来を生きるのではない」というコルチャック先生の考え方は、子どもの権利を守るための普遍条約という形で、国際社会への提起につながっていきました。

国連人権委員会に「子どもの権利条約」の作業部会が設置された1979年、ポーランドは社会主義諸国の一員でした。当時は冷戦の時代で、西側諸国は自分たちだけが人権と基本的自由の推奨者だと表明していましたが、ポーランド政府は人権の分野で建設的な役割を果たすことを表明したのです。この立場は他の社会主義諸国によって支持され、その後、世界中の国々からも支持されていきます。「子どもの権利条約」の根本には、コルチャック先生の願いが込められています。

### コルチャック先生の生涯

- 1878年 ロシア領ポーランド王国の首都ワルシャワに誕生。
- 1898年 ワルシャワ大学医学部入学。ワルシャワ慈善協会の施設で、教育活動を開始。
- 1905年 大学卒業。小児病院に勤務。
- 1911年 ドム・シェロット設立。
- 1918年 ポーランド独立。『子どもをいかに愛するか』発表。
- 1919年 ナシュ・ドム設立。
- 1929年 『子どもの権利の尊重』発表。
- 1940年 ワルシャワ・ゲットーに移住。
- 1942年 子どもたち200名とトレ布林カへ送られる。